



お話をお伺いした方

株式会社 近鉄百貨店本店 販売推進部
販売推進課長 ひろなかつかお 弘中宇男さん

日頃の担当業務	近鉄阿倍野店全般の販売計画・宣伝の計画
モットー	楽しくなければ仕事じゃない、仕事は楽しく！
趣味	スポーツ 特に野球・サッカー（フットサル） 野球は平日の出勤前、フットサルは平日の業務終了後に活動
休日の過ごし方	飼っている犬のお世話 街へ出かけ、新しい場所をめぐって、 仕事に活かせる情報を収集すること

株式会社近鉄百貨店におけるCSR活動

御社のCSR活動で、特に力を入れておられる分野は何ですか。

株式会社近鉄百貨店では、さまざまなCSR活動を行っていますが、特に環境活動に力を入れています。省資源・省エネルギーや廃棄物の削減、美化活動、環境にやさしい商品の紹介などです。

具体的には、どのような取組みを行っておられますか。

まず、省資源・省エネルギーに関する取組み

については、節電キャンペーンの推進、簡易包装の推進、コピー用紙等の節減が挙げられます。

簡易包装の推進については、近鉄オリジナルのエコバックの販売も行っており、徐々に浸透してきていると感じます。最近では、お客様の方から「簡単な包装で良い」と言っていただくこともあります。

また、廃棄物の削減としては、ごみの分別・軽量化や、婦人服等のハンガーのリユース、生ごみのリサイクル推進などがあります。生ごみリサイクルは、株式会社 関西再資源ネットワーク（上本町店）さんの協力を得て、肥料に加工しています。

美化活動では、店舗周辺の清掃活動や屋上緑化、大阪府アドプトフォレスト制度を利用したの植林

活動などがあります。

さらに、お客様へ環境にやさしい商品の紹介も行っています。6月は環境月間ですので、エコフェアを開催し、売り場でエコ商品を紹介する等の活動を行いました。

その取り組みの成果、また社内での反応はいかがですか。

社内では省資源・省エネルギーやごみの分別のルールが徹底されており、環境の意識は浸透していると思われます。今後は、現在のモチベーションを保ちつつ、一層CSR活動を進めていく必要があると考えています。

今年（平成23年）は、国連が定めた国際森林年にあたり、それを記念してこのリレーエッセイを実施しています。弘中さんは、個人的に森林や山に親しんだ経験はお持ちですか。

キャンプやバーベキュー、野球、フットサルなど、屋外でのレジャーやスポーツは好きですが、森林や山に親しんだのは中学校時代に行った「森林学校」くらいです。実は、虫や爬虫類は苦手です。

大阪での森づくり活動

アドプトフォレストに参加されたきっかけを教えてください。

平成20年、近鉄百貨店阿倍野店が創業70周年を迎えました。それを記念して、企業の社会貢献活動として、環境保全のための活動を実施しようという思いからスタートしました。

近鉄百貨店の商業圏内で、近鉄沿線でCSR活動に取り組みたいという思いがありました。

アドプトフォレストは、単なるCSR活動だけでなく、従業員やその家族のレクリエーションとしての側面も持ち、さらに温暖化対策として、社会

に貢献できる活動を行うことで、より一層企業のイメージアップにつながる活動だと感じていました。

アドプトフォレストに対する、社内での評判はいかがですか。

現在、活動の参加者は30名ほどです。

一度参加した人たちには、「普段できない体験ができる」と非常に好評です。また、社内で創業70周年の記念イベントとして認知されているので、参加者の上司も快く活動に参加させてくださいます。

参加するまでは前向きな気持ちでは無かった人も、実際に活動してみると、楽しいと感じてくれているようです。参加した方の評判が良いので、クチコミで広がり、新しい参加希望者が増える、ということもあります。

また、活動を通じて河南町の方とやり取りをさせて頂くようになり、月に一度、河南町の朝採れの野菜を販売する朝市をさせて頂くようになりました。

これも、アドプトフォレスト活動がきっかけで始まった交流から生まれたものです。



アドプト活動の成果や、活動に取り組んで良かったと思える点はどんなところでしょうか。

現在、社内のいろいろな部署の方が活動に参加してくれているのですが、森づくりの活動を通じて仲間意識が広がり、これまで無かった新しいつながりが増えていることです。

さらに、この活動を通じて、普段実感しにくい「社会貢献」ができていて、という感覚を実感できることが大きいと思います。

森づくりを進めていく上では、長期的な視点が大切だと思いますが、長期間モチベーションを維持するためのポイントはどのような点だと思われますか。

やはり、普段なかなか体験できないことを体験できるので、活動自体が楽しい、ということが大きなポイントだと思います。参加者のクチコミから新しい参加者の輪が広がれば、モチベーションアップにつながります。

また、百貨店の販売業務は、四季を通じて室内で仕事をするため、季節の移り変わりを感じる場面が少ないですが、森づくり活動では外の空気に触れ、思いっきり身体を動かすので、気候の変化を肌で感じることも魅力だと思います。

指導してくださっている「NPO 法人里山倶楽部」さんの提案で、活動の後にかき氷をつくったりバーベキューをしたりと、レクリエーションの要素も取り入れていることが、参加者にとって一層の

魅力になっていると思います。

これからの森づくり・アドプトフォレスト活動に対する思いをお聞かせください。

私も参加してまだ1年ですが、参加してみないとおもしろみが分からないので、今参加している方だけでなく、ぜひたくさんの方に参加してもらいたいと思っています。そして、植樹した木にたくさんの花が咲くようになれば、近鉄社員の花見会を開催したいです。

参加メンバーは、毎回7割くらいは経験者で、3割くらいの方が、新しい参加者です。山の中での活動は、チームワークが要求されます。森づくり活動でチームワークを強化し、それがお店でのチームワークにつながれば理想的ですね。

最後に、大阪府アドプトフォレスト制度や森づくり活動全般に対するご意見・ご要望があればお願い致します。

実際に活動に参加してみて、本当に活動の楽しさを実感しました。これは山に入ってみないとわからないことで、これからはぜひたくさんの方にこのおもしろさを体験してもらいたいですね。

いまのお子さんは、あまり話さないことが多いように思いますが、山での活動はコミュニケーション能力の向上にもつながると考えています。

子どもたちや、親御さん達にも、ぜひ若いうちに山に入ってもらい、自然に親しむ機会を持ってもらいたいと思います。

アドプトフォレストをきっかけに、「朝市の開催」など森づくり以外の分野でも、地元の皆さんと新たな活動を展開されていることを、頼もしく感じました。

活動地周辺は、桜の歌を多く詠んだ西行法師終焉の地として知られています。歴史ある地で、株式会社近鉄百貨店さまが植えられた桜が大きく育ち、新たな桜の名所となることを願っています。

インタビューー

大阪府 みどり・都市環境室 みどり推進課 森づくり支援グループ 上中 理恵子